

## 児玉神社の例大祭で李登輝前総統揮毫の扁額除幕式

# 藤沢市はイラストマップを改訂

### 本誌編集部



扁額と山本宮司

### 観光協会会長など百五十名が参列

陸軍大臣、参謀総長などをつとめた山口県徳山出身の児玉源太郎は、第四代台湾総督として民政長官に後藤新平を起用し、台湾のインフラ整備に力を尽くしたことで台湾の教科書にもその名前が記され、今でも台湾の人々から慕われている。明治三十九年（一九〇六年）七月二十三日、五十四歳で急逝している。

歿後百年の節目の年である今年の七月二十三日、児玉をご祭神とする神奈川県川尻江の島の児玉神社において、それを記念する例大祭が斎行された。

児玉神社は大正七年（一九一八年）のご創建で、山口の児玉神社より五年

も早く建立されているが、創建の議が起こったとき、多くの台湾の人々の奉賛によって造営された御社である。その社殿や神楽殿は台湾の阿里山檜で造られ、神楽殿の前にある狛犬もまた台湾・台北の観音山から切り出した観音石を用いて台湾の名工が製作したものであり、昭和五年（一九三〇年）十一月に第十三代台湾総督の石塚栄蔵が奉獻している。

例大祭では李登輝前総統の揮毫になる扁額の除幕式も行われるとのこと。藤沢市観光協会の二見幸雄会長や藤沢市議会の国松誠議長など藤沢市の要人や、神奈川県日華親善協会の酒井麻雄会長、日本高座会の呉春生会長ら地元関係者、台北駐日経済文化代表処か

らは許世楷代表代理の黄冠超氏、本会からは小田村四郎会長、柚原正敬常務理事、石川公弘神奈川県支部長、同支部役員、台湾からの留学生など約百五十名が参列して盛大に執り行われた。

午後一時少し前、祭主の山本白鳥宮司以下、ご奉仕の齋員が社務所から神楽殿への参道に歩を進める。降ったり止んだりしていた雨が上がり、山本宮司が厳肅な雰囲気の中になに祝詞を奏上しはじめると、陽射しが差し込んできた。また、荘重な雅楽が奏でられる中、小田村会長ら参列者が玉串を奉奠している中、近くの木々に動く小動物の影があり、よく見るとなんと台湾リスだった。

### 金泥に光り輝く扁額

一時間ほどで式典が終わり、いよいよ李登輝前総統の揮毫になる「児玉神社」扁額の除幕式だ。

扁額は社頭参拝する神楽殿正面の棟木のところに白布で覆って掲げられて



例大祭には本会からも大勢駆けつけた（7月23日）

いた。山本宮司、小田村会長、草開省二・日台交流教育会事務局長、石川支部長、二見観光協会会長、国松議長に光り輝く扁額が燦然と現れた。参列者からは「ホー」というため息とともに大きな拍手が沸き起り、神楽殿前にはカメラを撮る人々で埋まった。

山本宮司は李登輝前総統が扁額を揮毫されたのは本会の袖原事務局長の仲

介によること  
を紹介し、この節目の年に  
ご縁深い李登輝前総統に揮毫いただいた  
除幕式

を行うことができ、意義を強調して、謝意を述べられた。

その後、小田村会長ら除幕式を執り行われた方々が次々に祝辞を述べられ、この中で、小田村会長は児玉源太郎の生地である山口県周南市（旧徳山市）の児玉神社でもこの日に例大祭が行われていて、やはり李登輝前総統が「活氣長存」と揮毫された顕彰石碑の除幕式が斎行されていることを紹介された。

引き続き、酒樽が割られて参列者に樽酒が振る舞われる中、神楽殿にて雅楽道友会による舞楽「蘭陵王」が演じられ、午後三時、すべての式典はつつがなく終了した。

その後、山本宮司や責任役員、総代の方々など児玉神社関係者と小田村会長らは別に設けられた直会（懇親会）会場に移動し、夕刻まで例大祭と扁額除幕式の盛会を寿いだ。

### 藤沢市がイラストマップを改訂

余談になるが、藤沢市観光課と同協会が作成して無料で配布している「江の島イラストマップ」に、児玉神社の記載はない。「後藤新平の詩碑」解説の中に「参道の左手にある児玉神社の奥には」という箇所からうじて記載してある程度だ。その解説は、後藤新平の事績はともかく、後藤は「児玉源太郎とは、満州で親交を深めたと伝えられ」と誤記されてもいた。

これに気づいたのが、児玉神社を参拝した神奈川県支部の役員の方々だった。そこで早速、本部の袖原事務局長が記述を正すべく長文の文書を草して訂正を申し入れたところ、着いた直後くらいに観光協会から連絡が入り、ちようど改訂作業に入るところだったのだ、児玉神社とも相談して改訂したいとのことだった。

あまりにも素早い対応に驚かされたが、これはご神徳であり、節目の年にふさわしいと、山本宮司や神奈川県支部の方々も喜んだ次第である。